

茶園の放射性セシウム汚染の経過

[研究のねらい]

- ・東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故により、県内の茶に放射能汚染被害が発生したが、低減化のための知見は不足しているのが実態である。
- ・茶園における放射性物質の汚染の実態把握や動態を解明することにより、茶への放射性物質の有効な低減対策を確立する。

[研究の成果]

- ・チャの新芽、葉層および荒茶の放射性セシウム濃度は事故後3年間で大きく減少し、2014年には検出限界値以下となった(図1)。
- ・茶樹の各部位の放射性セシウム濃度は減少し、2014年には検出限界値以下となった(図2)。
- ・土壌中の放射性セシウムは表層に留まっているが、下層への移行は認められなかった(図3)。
- ・2011年に中切りを行った茶園の刈り落とし枝葉(土壌表層の有機物)の放射性セシウム濃度は2014年までに大きく減少した(図4)。

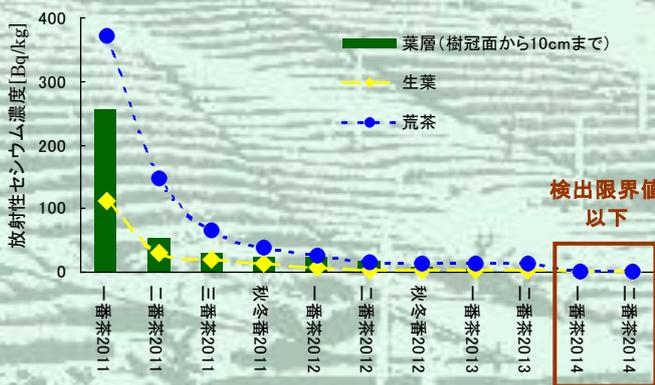


図1 新芽、葉層および荒茶の放射性セシウム濃度の推移

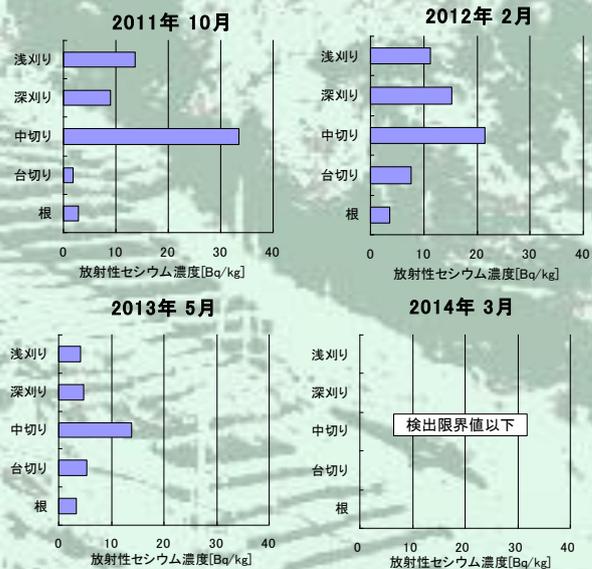


図2 茶樹の各部位の放射性セシウム濃度の推移

注)成園を浅刈り、深刈り、中切り、台切りの高さ(それぞれ、樹冠面から5cm、10cm、30cmおよび地表から10cm)で順にせん枝し、各部位を採取した

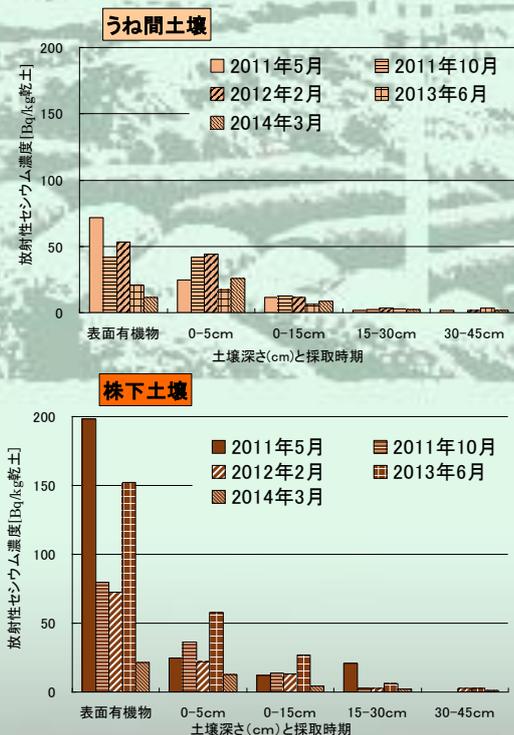


図3 土壌中の放射性セシウム濃度の推移



図4 中切り刈り落とし枝葉の放射性セシウム濃度の推移

問い合わせ先 生産環境科(土肥) 0548-27-2883
代表 0548-27-2880
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp